

「春夜」(春宵一刻直千金) 蘇軾

(原詩)

「春夜」

蘇軾

春宵一刻直千金

花有清香月有陰

歌管樓台聲細細

鞦韆院落夜沈沈

「タイムイズゴールド」

A K Y 訳

タイムイズゴールド(黄金春の宵)

月は朧に花清(さや)香(か)

夜ごとの宴(うたげ)もしずまつて

鞦韆(ぶらんこ)夜風に身をゆだね

(読下し文)

「春夜(はるのよ)」

蘇軾

春宵一刻直千金

花に清香有り月に陰有り

歌管樓台(ろうたい)聲細細

鞦韆(しゅうせん)院落(いんらく)夜沈沈

蘇軾(一〇三四〜一一〇一)、字は子瞻(しせん)、号は東坡(とうば)居士、四川省眉山県の人。宋代第一の詩人として知られています。

この詩は、第一句があまりにも有名。時間を金に換算するところは、現代的といえるでしょうか。

ところで、「一刻値千金」てどのくらい価値のものでしょうか。一刻は、時間の単位で、日本では、十二分の一(二時間)とされていますが、中国では百分の一(一日)だそうです。すると、十四分二四秒。これが千金すなわち千両に値するというのです。

宋の時代に一両がどのくらいの重さだったかは、よくわからないのですが、日本の尺貫法では、三七・五グラムと定められているそうです。ただし、これは、時代によって変動していたようで、江戸時代には、四〇〜五〇グラムぐらいであったらしい。仮に一両四〇グラムとして千両だと四〇キログラム、現在(平成一九年十二月)の金相場は、グラム三千円ぐらいなので、十五分弱で一億円を超えることになりました。日本の一刻だったなら、八億円。まさに「時はかね(黄金なり)」。そんなことから、タイムイスゴールドとしてみました。

第二句の「花に清香あり、月に陰あり」、これが、その一億円の内容。花は李か杏か、日本では、梅の花か、夜風に花の香が漂ってきます。月も煌々と輝く満月では深みがなない、ここは、朧にかすんでいなければ。一寸前までにぎやかだった宴も、いまは、遠くで切れ切りに聞こえるだけになりました。「歌管樓台聲細細」のところは、「聲寂寂」としているテキストもあり、その場合は、宴の歌や笛の音も、もはや止んでしまったということになります。細細の方が余韻が感じられるように思います。

第二句以外は、名詞と形容詞のみで、あざやかに春の夜を表現しています。

- 「歌管」は、歌と楽器。
- 「樓台」は、高殿。
- 「院落」は、中庭。
- 「夜沈沈」は、夜が深深と更けるさま。
- 「鞦韆」は、ぶらんこ、江戸時代には「ふらこ」とも言った。中国では、女性の遊戯具として彩りも華やかな優雅なものであったらしい。

中庭では乗るものもないブランコが風に静かに揺れて、夜は、しんしんと更けていきます。

### 〔参考〕他の方々の訳詩

「鞦韆(ぶらんこ)ヒソソリ夜ノ庭」

松下緑訳

コガネニ喩(たと)ウ春ノ宵

花ノ香匂ウオボロ月

宴ノ笛ノ音モトオク

鞦韆(ぶらんこ)ヒソソリ夜ノ庭

土岐善麿訳

ひととき惜しき春の宵や

月に陰あり香るは花

たかどのかすかにもる歌笛

ふらこたれて夜はふけたり